



# 東京ガス株式会社 2006年度第1四半期決算説明会

2006年7月28日

このプレゼンテーションに掲載されている東京ガスの現在の計画、見通し、戦略、その他の歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現在入手可能な情報から得られた東京ガスの経営者の判断に基づいております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、これら業績見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。実際の業績に影響を与える重要な要素には、日本経済の動向、急激な為替相場、原油価格の変動ならびに天候の異変等があります。

## 対前第1四半期比 増収増益

### < プラス要因 >

- ・ 全用途におけるガス販売量の増加
- ・ 原料費調整制度による単価増
- ・ 退職給付費用減による諸給与減とコストダウンによる諸経費減

### < マイナス要因 >

- ・ 原油価格の高騰による原材料費の増加

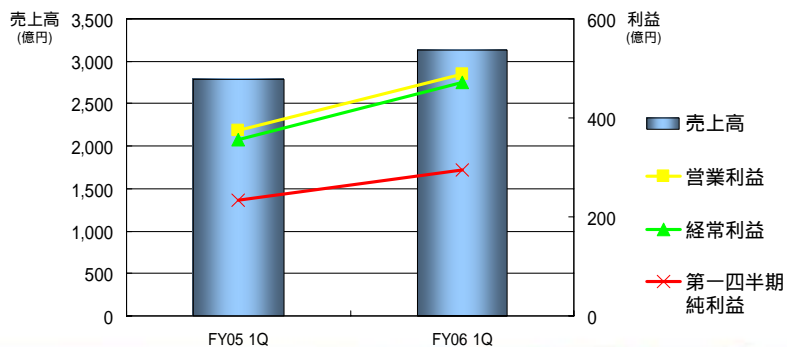
・本第1四半期は、工業用および卸供給を中心に全用途においてガス販売量が伸びたこと、および原料費調整制度によるガス料金単価の上昇等により増収となりました。

・一方、ガス販売量増および原油価格高騰に伴い原材料費は増加しましたが、コストダウンおよび退職給付費用の減少等により固定費が減少し、前期比で増収増益となりました。

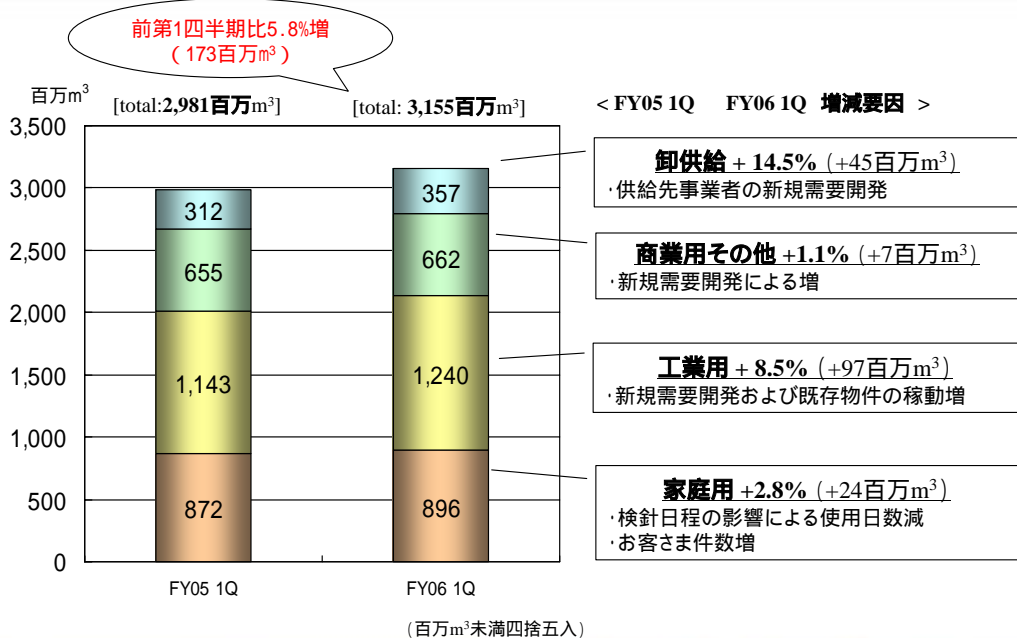
# 決算総括 (対前第1四半期)

(億円未満切捨て)

	FY05 1Q	FY06 1Q	増減
売上高	2,785	3,129	+344(+12.3%)
営業利益	374	489	+115(+30.5%)
経常利益	356	471	+115(+32.2%)
第1四半期純利益	233	295	+62(+26.4%)



# ガス販売量実績 (対前第1四半期)



4

・ガス販売量は、前期比+1億73百万m<sup>3</sup>、5.8%増の31億55百万 m<sup>3</sup>となりました。

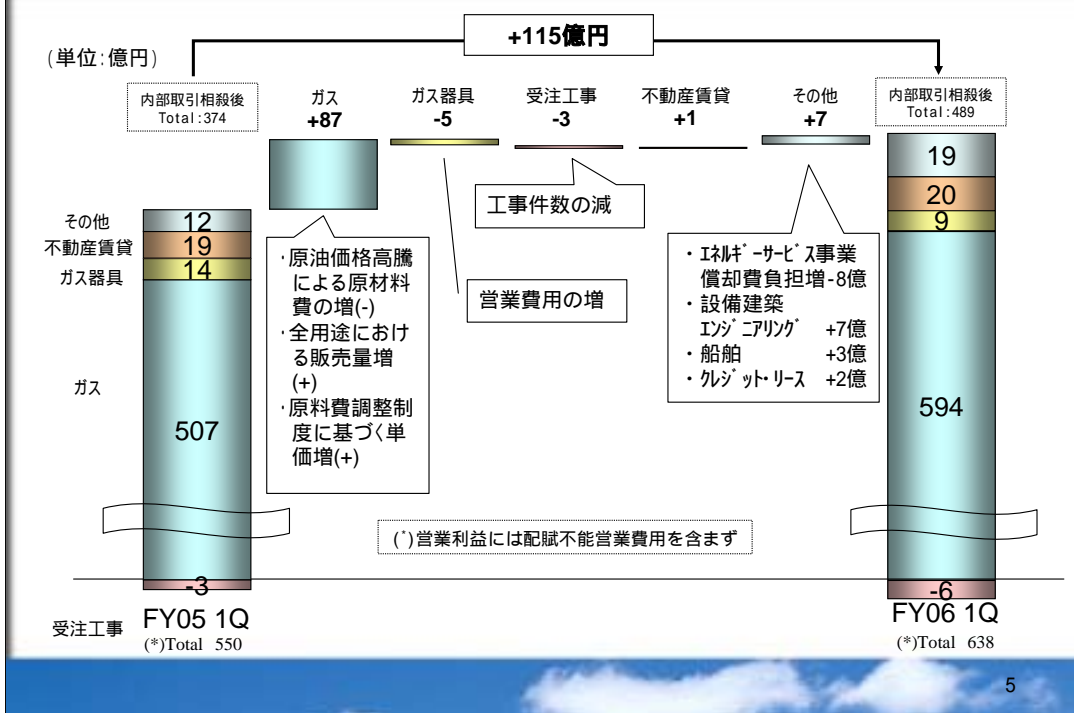
**家庭用**は、検針日程の影響により使用日数が減少したものの、お客様件数の増加により、前期比24百万m<sup>3</sup>、2.8%増の8億96百万m<sup>3</sup>となりました。

**工業用**については、新規需要の開発および既存物件の順調な稼動により、前期比97百万m<sup>3</sup>、8.5%増の12億40百万m<sup>3</sup>でした。

**商業用・その他用**は、新規物件の獲得等により、対前期7百万m<sup>3</sup>、1.1%増の6億62百万m<sup>3</sup>となりました。

**卸供給**については供給先事業者の引き取り量の増加により前期比45百万m<sup>3</sup>、14.5%増の3億57百万m<sup>3</sup>となりました。

# 営業利益増減要因



**ガス部門**については、原油価格高騰により原材料費は増加しましたが、全用途における販売量の増加および原料費調整制度による単価の上昇や固定費の減少等により前期に比べ87億円増の594億円となりました。

**ガス器具部門**については、営業費用の増加が売上の増を上回り、前期比5億円減の9億円となりました。

**受注工事**については、工事件数の減少により前期に比べて3億円悪化し、6億円の損失でした。

**不動産賃貸**については、1億円増加し、20億円となりました。

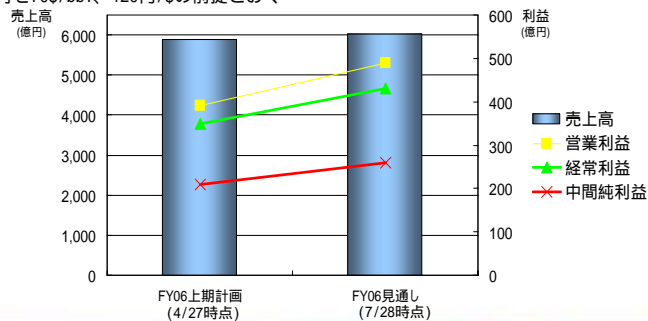
**その他事業**につきましては、エネルギーサービス事業における償却負担の増などの収支悪化要因はありましたが、設備建設エンジニアリング事業・船舶事業・クレジットリース事業における収支改善などにより7億円増加し、19億円となりました。

# 2006年度決算見通し (上期、対計画)

(億円未満切捨て)

	FY06上期計画 (4/27時点)	FY06上期見通し (7/28時点)	増減
売上高	5,890	6,020	+130 (+2.2%)
営業利益	390	490	+100 (+25.6%)
経常利益	350	430	+80 (+22.9%)
中間純利益	210	260	+50 (+23.8%)
原油価格(\$/bbl)	60.00	67.58	+7.58
為替(円/US\$)	120.00	117.25	-2.75

(注) 7月～9月を70\$/bbl、120円/\$の前提とおく



6

・売上高は第1四半期におけるガス販売量の増および原料費調整制度による単価の上昇等を織り込み、130億円、2.2%増の6,020億円を見込んでおります。

・一方、費用面ではガス栓安全点検巡回強化等への原資投入を予定しているため、営業利益は、100億円、25.6%増の490億円を見込んでおります。また、経常利益は80億円増の430億円、中間純利益は50億円増の260億円を見込んでおります。

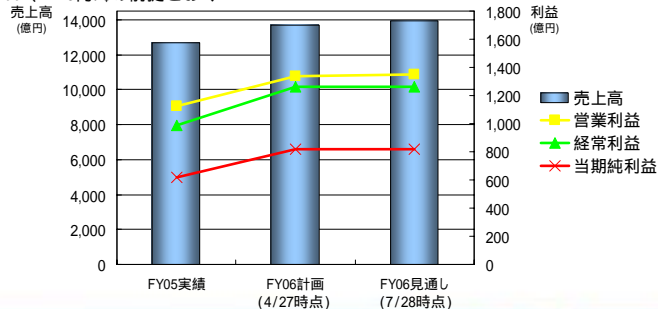
・なお、経済フレームについては、7月以降の9ヶ月間の原油価格を1バレル当たり70ドルといたしました。為替レートについては当初見通しを変更せず、1ドル120円としております。

# 2006年度決算見通し (通期、対前年・計画)

(億円未満切捨て)

	FY05実績	FY06計画 (4/27時点)	FY06見通し (7/28時点)	増減	
				対前年	対計画
売上高	12,665	13,700	13,940	+1,275(+10.1%)	+240(+1.8%)
営業利益	1,123	1,340	1,350	+227(+20.2%)	+10(+0.7%)
経常利益	986	1,260	1,260	+274(+27.7%)	±0
当期純利益	621	820	820	+199(+32.0%)	±0
ガス販売量(百万m <sup>3</sup> )	13,098	13,177	13,305	+207 (+1.6%)	+128 (+0.9%)
原油価格(\$/bbl)	55.79	62.50	68.79	+13.00	+6.29
為替(円/US\$)	113.32	120.00	118.62	+5.30	-1.38
気温( )	16.2	16.9	16.7	+0.5	-0.2

(注) 7月～3月を70\$/bbl、120円/\$の前提とおく



7

・売上高は当初見通しに比べ、240億円、1.8%増の1兆3,940億円を見込んでおります。これは、主として第1四半期におけるガス販売量増および原料費調整制度による単価の上昇によるものです。

・一方、費用面では、経済フレームの見直しに伴い、原材料費が増加する見通しです。また、電化対抗強化およびガス栓安全点検の巡回強化のための原資投入を予定しており、営業利益は当初見通しに比べ10億円、0.7%増の、1,350億円となる見込みです。

・経常利益は当初見通しと同様の1,260億円、当期純利益を同じく820億円と見込んでいます。